

令和5年度

## 「運営に関する計画」

### 最終評価

大阪市立東我孫子中学校

令和6年2月

## 大阪市教育振興基本計画における基本理念

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。

あわせて、グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします。

## 学校教育目標

主体的に学び、互いに尊重し合える生徒集団の育成

## 本校のめざす学校像

- ・個を認め、ともに高めあう集団の育成
- ・夢や志を高くもち、主体的に取り組む生徒の育成
- ・将来をたくましく生き抜く学力・体力・人間力を伸ばす教育活動の推進
- ・地域の中の一員としての成長を期待される学校

## 本校のめざす子ども像

- ・積極的に挨拶のできる生徒
- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・最後まで粘り強く取り組む生徒



## 目標達成に向けた教育方針

1. すべての教育活動において、自他の人権尊重の精神を実践する態度を育てる。
2. 基礎学力の向上につとめ、教育活動の多様な創意工夫によって、主体的に学習する態度を育てる。
3. 障がいのある仲間との交流を通して、互いに違いを認め合い、支えあう集団を育成する。
4. 生徒理解を通して、生徒・教職員相互のふれあいと信頼を深める。
5. うるおいのある学校環境づくりにつとめる。

## 大阪市立東我孫子中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

全体的に落ち着いた状況の中で、授業、学校行事、部活動などの教育活動が着実に進められている。器物破損や暴力行為などはほとんど見られない。友だち間のトラブルが発生した場合も早期対応を心がけ、解決に導いている。生徒会活動では、清掃活動や挨拶運動にも積極的に取り組む様子が見られる。しかし、基本的な生活習慣では、朝ごはんの喫食率がやや低く、家庭との連携をより重視しなければならない。また、不登校生徒や背景的な要因に課題のある生徒も年々増加傾向にあり、担任だけではなく学年を中心とした複数の教員が関わっているが、区のスクールソーシャルワーカーや関係諸機関とも連携したきめ細かい対応を進めていく必要がある。

学習面では、基礎基本の定着を重視するとともに、ICT機器等を活用したわかりやすい授業や班活動等を活用し、生徒が主体的に取り組む授業をめざしているが、よりいっそうの授業改善が求められるところである。

また、「チャレンジテスト」や3年生の「全国学力・学習状況調査」、「大阪市英語力調査」の結果を分析し、課題を全教員で共有することで、生徒の学力向上が期待できる。確かな学力の定着に向けて、生徒のやる気をより引き出す授業の創造、家庭学習や補充学習の充実を図る必要がある。

人権学習やキャリア教育等の取り組みでは、違いを認め合い、自他の大切さに気づき、自尊感情を高めるために、体験を重視した取り組みが大切であると考えている。今後は、さまざまな状況を踏まえて、創意・工夫した取り組みが行えるよう推進する。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合を、次の数値を目標として取り組む。

・「学校のきまり、規則を守っている」	95%以上	(95%) → 93%
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」	98%以上	(95%) → 94%
・「自分にはよいところがあると思う」	75%以上	(69%) → 76%
・「人が困っているときは、進んで助けている」	90%以上	(88%) → 89%

○校内アンケートを活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していないいじめ事案」をゼロにする。○暴力行為(体罰、暴言も含む)を起こさない学校づくりを進める。

○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生の割合を全体の5%以下をめざす。(8.5%) → 11.0%

○定期(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し生徒の適切な進路選択を指導する。「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと(進路)や生き方について考えている」について肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(68%) → 72%

○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解をめざし、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。

○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲の場となるよう学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率を前年度より向上させる。

○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合を、次の数値を目標として取り組む。

・「自分で計画を立てて勉強をしている」	65%以上	(57%) → 60%
・「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」	75%以上	(67%) → 64%
・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」	75%以上	(68%) → 73%
・「朝食を毎日食べている」	95%以上	(86%) → 81%
・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」	85%以上	(66%) → 64%
・「体力に自信がある」	60%以上	(48%) → 51%

○全国体力、運動能力、運動習慣調査での体力合計点において、全種目を全国平均点以上をめざす。

○すべての教科において、ICTを活用する時間を計画的に設定し「わかりやすい授業」をめざす。

○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。

○グローバル社会で通用するコミュニケーション能力の育成に努め、3年生で55%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように英語教育の充実を図る。(39.3%)

○健康的な生活習慣、食育活動(給食も含む)の推進とともに現代的課題(喫煙、飲酒、薬物乱用、感染症、生活習慣病、心の健康等)に対して、生徒一人ひとりが高い意識を持ち、健康の保持増進に努める。

**【学びを支える教育環境の充実】**

○ICTの活用に関する目標

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。
- ・デジタル教材を活用した学習(家庭学習を含む)を、週2回以上実施する。

○教職員の働き方改革に関する目標

- ・年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。
- ・ゆとりの日を月4回設定し、実施する。
- ・「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を85%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。（95%）→94%

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（9.4%）→（8.4%）→11.0%

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

○校内アンケートにおいて、次の各項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を次のようにめざす。

- |                              |       |       |      |
|------------------------------|-------|-------|------|
| ・「学校のきまり、規則を守っている」           | 96%以上 | (95%) | →93% |
| ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 | 98%以上 | (95%) | →94% |
| ・「自分にはよいところがあると思う」           | 68%以上 | (69%) | →76% |
| ・「人が困っているときは、進んで助けている」       | 86%以上 | (88%) | →89% |

○校内調査を活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していない『いじめ事案』」をゼロにする。

○暴力行為（体罰、暴言も含む）の発生をゼロにする。

○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生の割合を全体の10%以下をめざす。（9.4%）→（8.4%）→11.0%

○定期（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を高め、防災・減災計画に参画する。

○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し、生徒の適切な進路選択を指導し、校内アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと（進路）や生き方について考えている」と肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解を充実させ、個に応じた指導を組織的にを行い、進路や自立に結びつける。

○学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率を前年度より向上させる。

○「特別の教科・道徳」の授業と評価の充実をめざす。

○学校生活を意欲的に過ごす生徒を増やす。積極的に挨拶を行う生徒の割合を90%以上にする。（87%）

○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（中学校）

○校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45%以上にする。（33%）→34%

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。（2年 国語：0.97 数学：0.99 3年 国語：1.01 数学：1.02）

○令和4年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。（2年：25.9% 3年：17.9%）

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。32.0%

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を30%以上にする。（48.8%）

#### 学校園の年度目標

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、肯定的な回答する生徒の割合を次のようにめざす。

- |                        |       |       |      |
|------------------------|-------|-------|------|
| ・「自分で計画を立てて勉強をしている」    | 65%以上 | (57%) | →60% |
| ・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」 | 75%以上 | (67%) | →64% |
| ・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」 | 75%以上 | (68%) | →73% |
| ・「朝食を毎日食べている」          | 95%以上 | (86%) | →81% |
| ・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」 | 85%以上 | (66%) | →64% |
| ・「体力に自信がある」            | 60%以上 | (48%) | →51% |

○20mシャトルランにおいて、各自記録を向上させる。

○情報環境の整備に努め、一人一台端末の積極的活用を図り、生徒の学習意欲向上に繋げる。

○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。

○卒業時に50%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように小中連携した英語教育を進める。39.3%

○生徒一人ひとりが健康と食育に対し高い意識を持ち、健康の保持増進について考える力の育成をはかる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（中学校）

【ICT】○授業日において、学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を100%にする。

○教員の生徒のICT活用を指導する能力に対して、「指導できる」と肯定的に回答する割合を80%以上にする。

【働き方改革】○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を76%以上にする。

#### 学校園の年度目標

【ICT】○年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。

○デジタル教材を活用した学習（家庭学習を含む）を、週1回以上実施する。

【働き方改革】○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。

○ゆとりの日を月1回設定し、実施する。

○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を60%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立東我孫子中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した  
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。(79%)→77%</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(9.4%)→(8.5%)→11.0%</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○校内アンケートにおける次の各項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を次のようにめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校のきまり、規則を守っている」 96%以上 (95%)→93%</li> <li>・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 98%以上 (95%)→94%</li> <li>・「自分にはよいところがあると思う」 68%以上 (69%)→76%</li> <li>・「人が困っているときは、進んで助けている」 86%以上 (88%)→89%</li> </ul> <p>○校内調査を活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していない『いじめ事案』」をゼロにする。</p> <p>○暴力行為(体罰、暴言も含む)の発生をゼロにする。(1件)→5件</p> <p>○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生徒の割合を全体の10%以下をめざす。(9.4%)→8.5%→11.0%</p> <p>○定期(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を高め、防災・減災計画に参画する。</p> <p>○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し、生徒の適切な進路選択を指導し、校内アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと(進路)や生き方について考えている」と肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(68%)→72%</p> <p>○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解を充実させ、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。</p> <p>○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲の場となるよう学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率を前年度より向上させる。</p> <p>○「特別の教科・道徳」の授業と評価の充実をめざす。</p> <p>○学校生活を意欲的に過ごす生徒を増やす。積極的に挨拶を行う生徒の割合を90%以上にする。(77%)→77%</p> <p>○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>日々の生徒観察や相談活動を基本に、定例的教育相談(2回)、学期末懇談(2回)、生徒アンケート(3回)を実施する。さらに、気になる事案が発生した際は、教育相談、家庭訪問を積極的に行い、教職員どうしの情報共有を図ることで改善に向けて取り組む。</p> <p>[指標] 年度末の校内調査における「いじめ」の件数を前年度より減少させる。</p>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>日々の生徒観察を欠かすことなく、気になる状況が見られるときは、保護者との連携、教職員どうしの情報共有を図ることで、早期対応を心がける。</p> <p>[指標] 年度末の校内調査における「不登校」の生徒の割合を、前年度より減少させる。</p>	C
<p><b>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>学校・学年で協力して取り組む行事や部活動の充実を図り、学校生活を生き生きと意欲的に過ごす生徒を増やす。</p> <p>[指標] 年度末の生徒アンケートにおける「学校に行くのが楽しい」「文化祭や体育大会などの学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増やす。</p>	A

<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」を基本とした指導のもと、身なり決まり研修会を実施し、全教職員の共通理解を図り、決まりを守る姿勢を確立させる。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校の決まり、規則を守っている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「障がい」者問題、国際理解教育、社会問題など、人権にかかわる取り組みを各学年で計画的に行い、人権意識を高める。特に、外部講師を招くことで生徒の体験的理解を深める。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>平和学習や人権学習を通じて、自他ともに命を大切にする心を育成する。特に、外部講師を招くことで生徒の体験的理解を深める。また、「平和新聞」の作成を通じて、命の尊さについて学ぶ。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>各学年のキャリア教育の指針に従い、進路学習、職業講話、職業体験を実施する。将来を見据えた職業観や進路に対する意識を成長させる。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「自分には良いところがある」「自分の将来のことや生き方について考えている。将来の夢や目標を持っている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑧【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年2回以上の避難・消火訓練や防災訓練を実施し、防災への意識を高める。地域とともに、防災・減災訓練計画に取り組む。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>芸術や伝統文化に触れるような体験学習を、各学年それぞれ2回以上実施する。</p> <p>[指標] 体験後の校内アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や伝統などを学ぶことは大切である」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 1学期、2学期の教育相談、学期末懇談、学期ごとのアンケート等を予定通り実施した。いじめの件数は3件となっており、前年度の2件を少しだが上回った。</p> <p>② 各学年で家庭との連携をとり、対応している。今年度の不登校は53人であり、前年度の37人を上回っている。</p> <p>③ 「学校に行くのが楽しい」R4年度76%からR5年度82%となり、前年度を上回った。「文化祭や体育大会などの学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる」R4年度90%からR5年度94%となり、こちらも前年度を上回った。</p> <p>④ 毎月、全学年が生活指導点検、再点検を全学年行っている。「学校のきまり・規則を守っている」のアンケート結果は、肯定的な回答が93%となり、前年の95%より低くなった。しかし、2%だけ低くなったが、高い水準を保っている。</p> <p>⑤ 障がい者問題、同和教育、LGBTQを含む性教育など、各学年人権に関わる取り組みをおこない、人権意識を高めた。また外部講師を招き、講話を開いた。「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合は88%で90%に満たなかった。</p> <p>⑥ 各学年平和学習に取り組み、文化祭では平和新聞を作成して展示発表を行った。1年生は外部講師を招き平和について、LGBTQについて学習した。3年生は外部講師を招き、部落問題について学習した。校内アンケートにおける「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い」の項目に対し、肯定的な割合が前年度と同じ92%であった。</p> <p>⑦ 年度は2年の職業体験が実施でき、他学年もそれぞれキャリア・進路学習を進めている。2学期末の生徒アンケートでは、「自分には良いところがある」「将来のことや生き方について考える」の項目について肯定的な割合が前年度よりそれぞれ3～5ポイント向上した。</p> <p>⑧ 「事件や事故、災害が発生した時、どうしたらよいかわかっている」の項目が前年度から－1ポイントで68%であった。年2回の避難訓練の他にも1年生で防災学習を実施するなど、充実した内容を取り組めた。</p> <p>⑨ 2月に全学年での芸術鑑賞を行った。また12月に1年が上方落語にふれあう会を、1月に2年が百人一首大会を実施した。3月には3年で茶道講習会を予定している。</p>	

次年度への改善点	
① 教育相談や懇談、アンケートの実施を引き続き行い、次年度も低い数字を維持できるように努める。	
② 次年度も各家庭と連携を取りながら、どの生徒も学校に登校できる環境をつくる。	
③ 中間評価に比べ、どちらのアンケート結果も数値は上がっている。行事に限らず活躍の場を増やすことで、意欲的に過ごす生徒が増えるよう努める。	
④ 身なり決まりの内容に関して、毎年変化があるため、来年度も引き続き教職員全体で共通理解を図っていく。	
⑤ 次年度は、各学年取り組み内容をさらに工夫して行う必要がある。	
⑥ 次年度も引き続き取り組んでいきたい。	
⑦ 来年度の2年の職業体験の取り組みを今後も進めていく。また将来を見据えた職業観や進路に対する意識を成長させる取り組みを今後も行っていきたい。	
⑧ 来年度も引き続き、積極的に防災訓練に取り組んでいくとともに、今後も災害について身近に考える機会をできるだけ多くとっていきたい。	
⑨ 来年度も予定通りに鑑賞行事が行えるよう、企画・準備を進めていく。	
年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標（中学校）</b></p> <p>○校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45%以上にする。（33%）→34%</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p style="text-align: center;">（2年時 国語：0.95 数学：0.96 3年時 国語：0.94 数学：0.96）</p> <p>○令和5年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団と比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。（2年時：25.9% 3年時：31.75%）</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○校内アンケートの結果において、次の各項目について、肯定的な回答する生徒の割合を次のようにめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分で計画を立てて勉強をしている」 60%以上 （57%）→59%</li> <li>・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」 70%以上 （67%）→64%</li> <li>・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」 70%以上 （68%）→73%</li> <li>・「朝食を毎日たべている」 90%以上 （86%）→81%</li> <li>・「毎日同じ位の時間に早寝、早起きしている」 80%以上 （66%）→68%</li> <li>・「体力に自信がある」 50%以上 （48%）→51%</li> </ul> <p>○20mシャトルランにおいて、各自記録を向上させる。</p> <p>○情報環境の整備に努め、一人一台端末の積極的活用を図り、生徒の学習意欲向上に繋げる。</p> <p>○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。</p> <p>○卒業時に50%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように小中連携した英語教育を進める。 39.3%</p> <p>○生徒一人ひとりが健康と食育に対し高い意識を持ち、健康の保持増進について考える力の育成をはかる。</p>	B



<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の予習・復習、定期テスト対策・学力調査対策等に活用できる学習教材を作成、提供し、自主学習や家庭学習の習慣化を定着させる。また、放課後の補充学習、自主学習教室での学習支援を行う。</p> <p>〔指標〕 1) 定期テストで、5科平均正答率40%以上の生徒の割合を、75%以上をめざす。 2) 年度末の生徒アンケートにおける「自分で計画を立てて勉強している」「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>全学年の理科の授業において、生徒実験・観察や演示実験や標本の観察等、実物に触れる授業を年間50回実施する。</p> <p>〔指標〕 校内の生徒アンケートにおいて、「授業の内容がよくわかる。授業が楽しい」の項目に対し、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上をめざす。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NETとのTT授業や授業の中でのコミュニケーション活動を通じ、英語力の向上に取り組む。また、NHK基礎英語をベースにした英語教材「基礎英語LEAD」を活用した自主教材を作成し、定期的に取り入れる。</p> <p>〔指標〕 1) 令和4年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、55%以上にする。</p>	C
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上に向けた持久力維持向上のために、ランニング・ダッシュの基礎的トレーニングに毎時間取り組む。</p> <p>〔指標〕 春・冬に20mシャトルランのテストを実施し、その結果を各学年内で比較し、3年生は35%以上、1・2年生男子は70%以上、女子は50%以上の生徒の記録を更新させる。</p>	B
<p>5取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>生徒の体力・運動能力向上に向けて、毎授業で基礎的トレーニングを10分～15分間取り組む。</p> <p>〔指標〕 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に50mと立ち幅とびの記録を、前年度より5ポイント増加させる。</p>	B
<p>取組内容⑧【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>保健委員会の活動を通じて、教室の環境整備や校内の美化活動に取り組む。とくに、健康に関する劇に取り組み、校外の講習会に参加し、健康や食に関する関心を高める。</p> <p>〔指標〕 年度末の生徒アンケートにおける「清掃活動をまじめに取り組んでいる」「朝食を毎日食べている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容⑨【基本的な方向4 若手教員の指導力向上と校内研修の支援】</p> <p>教職員の資質、指導力の向上を目指し、校内研修会を充実させるとともに、全教員による校内研究授業を実施する。</p> <p>〔指標〕 ICT機器活用研修を含め、年間6回の校内研修会を実施する。また、全教員による校内研究授業を2学期末までに一人1回以上実施する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① ICTの活用や分割授業などを行い、わかりやすい授業を目指している。2学期末のアンケートでは「授業がよくわかる。楽しい」の項目の肯定的な割合は61から65へと向上した。チャレンジテスト（3年）についてはすべての教科で下位層25%の生徒の割合は前年度より増加した。</p> <p>② 全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率は国数科が昨年より2ポイントほど増加したが、英語は前年度より低かった。</p> <p>③ 2学期期末テストでの5科平均正答率40%以上の生徒は、1年67%、2年75%、3年70%であった。2年以外は目標を下回っているため、さらなる学習支援を行っていく必要がある。また2学期末のアンケートでの「計画を立てて学習している」が57から55、「家庭学習している」が60から61となり、肯定的な割合はやや減少と微増となった。</p> <p>④ 生徒実験・観察や演示実験や標本の観察等、実物に触れる授業を45回程度できた。また、「授業の内容がよくわかる。授業が楽しい」の項目に対し、肯定的に回答する生徒の割合が65%であり、いずれもやや目標を下回っている。</p> <p>⑤ C-NETを用いた授業では、コミュニケーション活動を2週間に1回実施できた。10月に実施した英語力調査の結果でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が39.3%と指標の55%を下回った。</p> <p>⑥ 20mシャトルランのテストの比較の結果、3年生は47%が記録を更新した。2年生男子は91%記録を更新したが、女子は34%に留まった。</p> <p>⑦ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、50m走、立ち幅とびともに前年度の記録を上回った。</p> <p>⑧ 「清掃活動をまじめに取り組んでいる」の項目が前年度と同じく85%となり、「朝食を毎日食べている」の項目が75ポイントで78%となった。残食のボードを作成し、残食に関して意識できるように取り組むことができた。</p> <p>⑨ 1月末までに6回の校内研修会を行った。（身なり決まり研修会、フラワー研修会、エビペン研修会、AED研修会、自動採点アプリ研修会、人権教育実践交流会）。また、学力向上研修や、全教職員による研究授業も行った。</p>	

次年度への改善点	
<p>① 各学年・各教科でICTを活用した教育活動の推進をさらに図っていく。また今年度は朝学習のデジタルドリル化にも取り組んだが、来年度も続けていくのか検討していきたい。</p> <p>② 各学年、話し合いやグループワーク、ペアワークなどを効果的に取り入れて、生徒のさらなる学力向上を図っていく。</p> <p>③ 定期テストにおける指標を全学年では達成できなかった。生徒の学力向上に向けてさらなる授業改善と、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>④ 各教師自己研鑽と情報の交換に努めてきたが、さらに授業の質の向上、学力の定着に努めたい。理科室の整備にも努めていきたい。</p> <p>⑤ C-NETやデジタルドリル等を用いた授業・自主学習支援を継続的に行うとともに、生徒のさらなる英語力向上に対する支援を進めていく。</p> <p>⑥ 体力の中でも持久力は強化できつつあると感じている。次年度以降も継続的に取り組むとともに、合わせて瞬発力やスピード系の運動量を増やしていく必要があると考える。</p> <p>⑦ 運動能力テストにおいて、男女とも全国平均を上回ることができた。次年度以降も、筋力トレーニングを継続して続けていく。</p> <p>⑧ 朝食を毎日食べている割合が減っているので、「食」について意識できるように、様々な角度から取り組んでいきたい。</p> <p>⑨ 今年度もさまざまな研修会を実施できた。今後は研究授業について相互参観を充実させ、研究協議や意見交換の機会を増やすなど、さらに個々の授業の研鑽に努めていきたい。</p>	

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標（中学校）</b></p> <p>【ICT】○授業日において、学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を100%にする。 ○教員の生徒のICT活用を指導する能力に対して、「指導できる」と肯定的に回答する割合を80%以上にする。</p> <p>【働き方改革】○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を76%以上にする。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>【ICT】○年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。 ○デジタル教材を活用した学習（家庭学習を含む）を、週1回以上実施する。</p> <p>【働き方改革】○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。 ○ゆとりの日を月1回設定し、実施する。 ○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 一人一台の端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを実施する。</p> <p>-----</p> <p>【指標】 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】 一人一台の端末の学習環境を生かすため、普通教室・特別教室に大型モニターかプロジェクタの固定設置を推進する</p> <p>-----</p> <p>【指標】 年度末における普通教室・特別教室の大型モニター・プロジェクタの固定設置率を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 風通しの良い職場づくりに努め、教職員一人一人がそれぞれの特性を生かした教育活動を実施する。</p> <p>-----</p> <p>【指標】「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 学習者端末アンケートを実施したところ、全体の64.8%が「よく活用している」「活用している」という結果となった。朝学のデジタルドリル化も進めたので、もう少し活用率が上がることを期待したが、端末が起動しないなどの理由もありこの結果となった。</p> <p>② 今年度1年生の残りの教室（1教室）にプロジェクタを固定設置ができ、普通教室に関しては、固定設置率100%を達成した。特別教室について、固定設置を進めていきたい。</p> <p>③ 行事予定に月1回はゆとりの日を設定し、早く退勤するように促している成果もあつてか、時間外勤務時間が月80時間を超える教職員の割合は20%未満になっている。</p>	
次年度への改善点	
<p>① デジタルドリルを朝学で使用するにあたり、設定などに工夫が必要であると考えられる。また、充電できていない端末を忘れたなどの生徒が増えないように指導する必要がある。接続ができない場合の対処法も、多くの教員に認知してもらい、対応する必要がある。</p> <p>② 普通教室のプロジェクタ・大型モニターの設置が完了した。しかし、特別教室においては、まだ未整備の部分がある。その他、スクリーンやHDMI ケーブルの破損も増えてきており、維持管理も課題となる。</p> <p>③ 来年度も引き続き、ゆとりの日等を有効活用し、時間外勤務の削減に努めていく必要がある。</p>	